

フライングドクターの歴史



世界初の包括的航空医療サービスであるフライングドクター。誕生、そして全国的な普及には様々な苦難と努力があったと言われています。来年 2008 年には創立 80 周年を迎える、フライングドクターの歴史を紹介します。

フライングドクターの創始者 John Flynn 師



ジョン・フリン師

1880年にビクトリア州で生まれたジョン・フリン (John Flynn) 師は、23歳の時に長老派教会の牧師になるための訓練を始めた。内陸部で宣教活動をしていたフリン師は、地方の人々が医療品の全く無い生活環境で不安を抱えながら生きていることを知り、そのような人々を助けたいという思いを持ち始めた。フリン師は、1912年にその地方の人々の生活状況をまとめた報告書を教会に提出し、それに共感した教会本部は、フリン師をオーストラリア内陸宣教区 (Australia Inland Mission: AIM) の最高責任者に任じた。当時、たった2人の医師が西オーストラリア州の30万平方km、北部準州の150万平方kmの土地に住む人々の健康を診ていたオーストラリア内陸部で、フリン師は自身の「Mantle of Safety (安全のマンツ)」という思想を実現させるため、内陸部に小病院やホステル

を作り、医薬品の配達などのため、他の牧師たちに更に遠隔地へと向かわせた。しかし広大な土地全てを周るのには、距離と通信手段の問題が残った。1917年、フリン師の思想に共感した医学生クリフォード・ピール (Clifford Peel) は、当時ようやく交通手段としての信頼性が認められてきた飛行機に目をつけ、フリン師に飛行機を使った航空医療を提案した。フリン師はすぐにその考えを受け入れ、ペダル式発電機をつけたワイアレス・トランシーバーの開発と同時に募金活動を始め、以後カンタス航空の創始者となるハドソン・フィッシュ (Hudson Fysh) の協力で航空機を借りることに成功した。これがフライングドクターの歴史の始まるきっかけとなった。

1951年にこの世を去ったフリン師の墓石は、師が全ての想いを馳せた大陸内陸部、アリス・スプリング近くのマウント・ギレン (Mt Gillen) に建っている。また、ジョン師の肖像は、20オーストラリア・ドル紙幣に描かれ、彼の功績の大きさを今でも物語っている。

これまでの歴史

1928年に、クイーンズランド州のクロンカリー (Cloncurry) で最初のフライングドクター基地が設立された。最初は実験的に行われたにも係わらず、1920年代後半に起きた世界大恐慌の影響を受けつつも活動を継続し、1932年にはAIMは大陸奥地にある10カ所もの小病院との提携を確立した。クロンカリーでの成功は、内陸部に住む人々、そして世界各地の同じような環境で生きる人々にとっては希望となったことを受けて、国内各地にサービスを拡大しようという社会の氣勢が高まった。

そして1934年、サービスはオーストラリア航空医療サービス (Australian Aerial Medical Service) に引き継がれ、それから数年をかけてサービスを統括する本部が作られ、各地域に基地が増設された。

1942年、フライングドクターサービスという名前に変わり、1955年にはエリザベス2世より、「Royal (王立)」を接頭辞として名前の前につけることが認められる。

フライングドクターの通信技術が、大陸奥地に住む子どもたちの教育手段にもなったこともあり、大陸奥地の人々の命だけで

なく発展も支えてきた。それによりフライングドクターは、現在世界で最も敬意が表される団体の1つとされている。



コラム 日本の航空医療

日本には、「ドクターヘリ」と呼ばれるヘリコプターを使った航空医療がある。ドクターヘリとは、各地の救命救急センターにある医療器具を搭載しているヘリコプターに医師や看護師が乗り込んで、救助に向かう医療サービス。滑走路を必要としないことや、交通渋滞がないため、一般の救急車より早く現場に到着して治療を開始できる利点がある。患者の症状によっては治療開始が遅くなれば死亡率が高くなる場合もあるため、ドクターヘリの効果は注目されてきたが、自治体が負担するヘリコ

プター運営費用が高く、また着陸できる場所が限られているという問題から、全国で10カ所の救命救急センターのみが同サービスを行っていた。こうしたことから、今年6月に、「ドクターヘリの全国配備をめざす特別措置法案 (通称ドクターヘリ法案)」が衆議院本会議で可決し、寄付金などによる自治体の財政負担軽減を目指して全国にドクターヘリを普及させることになり、日本の航空医療は大きく発展する兆しを見せている。